

韓国の青少年にみられる美容整形手術施行願望の心理

— M-GTA を用いた美容整形手術経験者へのインタビュー分析に基づいた仮説生成 —

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
臨床心理学領域  
金 多妍

本研究の目的は、韓国の美容整形手術のブーム化に着目し韓国の青少年が美容整形手術を望む心理を明らかにすることである。また、韓国の社会情勢を把握するための外貌至上主義の根拠を示すこと、青少年の美容整形手術に至る心理を探ることで美容競争社会のなかで苦しむ青少年を救うための方法を模索できることに意義がある。

対象者は、美容整形手術の経験のある22歳から25歳までの韓国の青少年6名である。半構造化面接で得たデータをM-GTAを用いて分析し、19の概念と、7のカテゴリーを形成しその結果をもとにストーリーラインを作成した。

結果、現代の韓国社会は深刻な外貌至上主義的な社会で、人を内面よりも外見で判断する傾向にある。そして外見的<劣等感>を抱く青少年たちが、<勝ちたい気持ち>、<自己イメージの改善>など7つの理由から美容整形手術を希望していることを明らかにした。しかし手術を受けるためには<経済的余裕>、<安全性>などの物理的条件をクリアする必要があり、社会的背景、内在化された心理、物理的条件の3つの条件がすべて揃うと青少年は美容整形手術を受けるようになる。